



Hewlett Packard
Enterprise

HPE Network Node Manager iSPI Performance for Traffic Software

ソフトウェアバージョン:10.30
Windows®およびLinux®オペレーティングシステム向け

レポートのオンラインヘルプ

ドキュメントリリース日 :2017年6月
ソフトウェアリリース日 :2017年6月

ご注意

保証

Hewlett Packard Enterprise製品とサービスに関する単独の保証は、かかる製品とサービスに付属する保証ステートメントに明示的に定められています。ここに記載された情報は追加の保証をなすものではありません。HPEではここに記載されている技術的、または編集上の不正確さや脱漏については責任を負いません。

ここに記載されている情報は予告なく変更されることがあります。

制限付き権利

機密コンピューターソフトウェアこれらを所有、使用、または複製するには、HPEが提供する有効なライセンスが必要です。FAR 12.211および12.212に準拠し、商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメント、および商用アイテムの技術データは、ベンダーの標準商用ライセンスの下、米国政府にライセンスされています。

著作権

© Copyright 2009 - 2017 Hewlett Packard Enterprise Development LP

商標

Adobe®はAdobe Systems Incorporatedの商標です。

Microsoft®およびWindows®はMicrosoft Corporationの米国内での登録商標です。

Red Hat® Enterprise Linux®は米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.の登録商標です。

マニュアル更新

このドキュメントのタイトルページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアバージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日。ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日。ソフトウェアのこのバージョンのリリース日を示します。

最近の更新を確認するか、ドキュメントの最新版を使用していることを確認するには、次のサイトを参照してください:

<https://softwaresupport.hpe.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=>

このサイトにはHPパスポートのアカウントが必要です。アカウントを持っていない場合は、HPパスポートサインインページの[アカウントの作成] ボタンをクリックします。

サポート

HPEソフトウェアサポートWebサイトには、次のアドレスからアクセスしてください。 <https://softwaresupport.hpe.com>

このWebサイトでは、製品、サービス、およびHPEソフトウェアが提供するサポートに関する詳細と連絡先の情報を提供します。

HPEソフトウェアサポートでは、お客様ご自身で情報を検索していただけるセルフソルブ検索を提供しています。すばやく効率的な方法で、お客様のビジネス管理に必要な対話型テクニカルサポートツールにアクセスできます。サポートの大切なお客様として、サポートWebサイトで次の操作が可能です。

- 興味のあるナレッジドキュメントの検索
- サポート事例と改善要求の送信と追跡
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPEサポート契約の検索
- 利用可能なサービスに関する情報のレビュー
- 他のソフトウェアユーザーとの情報交換
- ソフトウェアトレーニングの調査と登録

ほとんどのサポートエリアでは、HPパスポートのユーザーとして登録してサインインする必要があります。また、多くのエリアではサポート契約も必要です。HPパスポートIDを登録するには、<https://softwaresupport.hpe.com> にアクセスして、[登録]をクリックします。

アクセスレベルの詳細については、次のURLにアクセスしてください。

<https://softwaresupport.hpe.com/web/softwaresupport/access-levels>

オンラインヘルプのこのPDF版について

このドキュメントは、オンラインヘルプのPDF版です。このPDFファイルの提供によって、ヘルプ情報から複数のトピックを簡単に印刷したり、オンラインヘルプをPDF形式で読むことができます。このコンテンツはWebブラウザで表示されるオンラインヘルプとして作成されているため、一部のトピックが適切な形式になっていない可能性があります。また、一部の対話型トピックはこのPDF版で表示できない可能性があります。それらのトピックはオンラインヘルプから正常に印刷できます。

目次

第2章: インタフェーストラフィック集計済みレポート	7
インタフェーストラフィック集計済みヘッドラインレポート	8
インタフェーストラフィック集計済み上位N分析レポート	9
インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポート	13
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位会話のレポート	15
インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポート	16
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信先のレポート	18
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信元のレポート	19
インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポート	19
インタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポート	21
インタフェーストラフィック集計済み上位会話のレポート	22
インタフェーストラフィック集計済み上位送信先のレポート	23
インタフェーストラフィック集計済み上位インタフェースのレポート	24
インタフェーストラフィック集計済み上位送信元のレポート	24
インタフェーストラフィック集計済み上位ToS (サービスのタイプ) のレポート	25
インタフェーストラフィック集計済み上位送信先ポートのレポート	26
インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポート	26
インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポート	29
インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポート	32
インタフェーストラフィック集計済み上位Nチャート分析レポート	35
インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポート	38
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位会話のレポート	40
インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポート	41
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信先のレポート	43
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信元のレポート	44
インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポート	44
インタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポート	46
インタフェーストラフィック集計済み上位会話のレポート	47
インタフェーストラフィック集計済み上位送信先のレポート	47
インタフェーストラフィック集計済み上位インタフェースのレポート	48
インタフェーストラフィック集計済み上位送信元のレポート	48
インタフェーストラフィック集計済み上位ToS (サービスのタイプ) のレポート	49
インタフェーストラフィック集計済み上位送信先ポートのレポート	50
インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポート	50
インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポート	53
インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポート	55
インタフェーストラフィック集計済み上位Nテーブル分析レポート	58
インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポート	62
インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポート	64
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位会話のレポート	66
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信先のレポート	66
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信元のレポート	67
インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポート	67

インタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポート	69
インタフェーストラフィック集計済み上位会話のレポート	70
インタフェーストラフィック集計済み上位送信先のレポート	71
インタフェーストラフィック集計済み上位インタフェースのレポート	71
インタフェーストラフィック集計済み上位送信元のレポート	72
インタフェーストラフィック集計済み上位 ToS (サービスのタイプ) のレポート	72
インタフェーストラフィック集計済み上位送信先ポートのレポート	73
インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポート	73
インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポート	76
インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポート	78
用語集	82
ドキュメントのフィードバックを送信	83

第2章: インタフェーストラフィック集計済みレポート

HPE Network Node Manager iSPI Performance for Traffic Software (NNM iSPI Performance for Traffic) は、NNM iSPI Performance for Traffic環境でのネットワークパフォーマンスデータを表示および分析するためのインターフェーストラフィック集計済みレポートを提供します。インターフェーストラフィック集計済み拡張パックを使用して、5分ごとに集計されたトラフィックデータのレポートを生成することができます。このデータはNPSデータベースに最大で400日間格納されます。そのため、過去1年間の、履歴データがあるレポートを作成、およびパフォーマンスメトリックのレポートを表示するために、このレポートグループを使用できます。

注: デフォルトの集計間隔を修正して、5から15までの範囲の値 (分単位) に指定することができます。詳細については、『HPE Network Node Manager iSPI Performance for Traffic Softwareオンラインヘルプ』の「マスターコレクターの設定」セクションを参照してください。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素 (送信元、送信先、およびアプリケーション) を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名] または [-1] としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。ホスト名のような文字列は匿名および整数として表示され、ポート番号は-1として表示されます。

このレポートのカテゴリにより、次の作業を実行できます。

- 上位影響要素のレポートを表示する: アプリケーション、サービスのタイプ、送信元、送信先、および会話に対して最も影響を与えている要素を直接調査できるようにするレポートです。
- 影響要素のコンテキスト分析を実行する: 上位影響要素のレポートでは、NPSの状況依存ナビゲーション機能を使用してレポートを生成することにより、より詳細にデータを分析できます。表示されている影響要素を1つ選択し、その影響要素に対してドリルダウン分析を提供するレポートを起動できます。

以下のタイプのインターフェーストラフィック集計済みレポートを表示できます。

- ヘッドラインレポート
- 上位N分析レポート
- 上位Nチャート分析レポート
- 上位Nテーブル分析レポート

クイック起動レポートビュー

NNM iSPI Performance for Trafficは、**クイック起動レポートビュー**も提供します。クイック起動レポートビューには最も使用頻度が高いレポートへのショートカットが含まれています。これらのビューには、5分ごとに集計されたデータに基づくレポートが提供されます。NNM iSPI Performance for Trafficには以下のレポートビューがあります。

- サイト間のアプリケーショントラフィック
- 上位アプリケーション帯域幅使用率
- 上位送信先ポートとアプリケーション
- 上位送信先
- 上位インタフェース

独自のカスタマイズされたレポートを作成して、そのショートカットをクイック起動レポートビューに追加することもできます。詳細については、『HPE Network Node Manager iSPI Performance for Metrics Softwareオンラインヘルプ』の「レポートビューの使用」を参照してください。

インターフェースのトラフィック集計済みレポートを表示するための前提条件

インターフェーストラフィック集計済みレポートを表示するには、以下の前提条件が満たされている必要があります。

- ご使用の環境にNNM iSPI Performance for Trafficをインストールする前にNNM iSPI Performance for Metricsをインストールします。
- インターフェーストラフィック集計済み拡張パックが正常にインストールされていることを確認してください。インストールが正常であるか確認するには、以下のコマンドをNPSシステムで実行します。

Windowsの場合

```
%NPSInstallDir%\NNMPerformanceSPI\bin\statusALL.ovpl
```

Linuxの場合

```
\opt\OV\NNMPerformanceSPI\bin\statusALL.ovpl
```

このコマンドで拡張パックのステータスがOKと表示されれば、インストールが正常に行われていることとなります。

インターフェーストラフィック集計済みレポートへのアクセス

インターフェーストラフィック集計済みレポートにアクセスするには、以下の手順を実行します。

1. NNMiコンソールにログオンします。
2. メニューバーから[アクション] > [NNM iSPI Performance] > [レポート-レポートメニュー]をクリックします。これにより、Network Performance Serverページが起動します。
3. インターフェーストラフィック集計済み拡張パックを使用して起動できるレポートのリストを表示するには、ナビゲーションパネルの[レポート]タブの下で[iSPIトラフィック] > [インターフェーストラフィック集計済み]をクリックします。

インターフェーストラフィック集計済みヘッドラインレポート

ヘッドラインレポートでは、次のグラフを使用して、過去1時間のトラフィックパフォーマンスの広範なビューを提供します。

グラフ	説明
上位N着信会話	選択した送信元と送信先のホスト間での上位N件の着信会話を表示します。
上位N発信会話	選択した送信元と送信先のホスト間での上位N件の発信会話を表示します。
上位N着信送信先	最大量のデータを受信する上位N送信先ホストを表示します。受信データのボリュームを表示します。
上位N発信送信先	最大量のデータを送信する上位N送信先ホストを表示します。送信データのボリュームを表示します。
上位N着信送信元	最大量のデータを受信する上位N送信元ホストを表示します。受信データのボリュームを表示します。
上位N発信送信元	最大量のデータを送信する上位N送信元ホストを表示します。送信データのボ

グラフ	説明
	リユームを表示します。
上位N着信アプリケーション	最大量のデータを受信する上位Nアプリケーションを表示します。
上位N発信アプリケーション	最大量のデータを送信する上位Nアプリケーションを表示します。
上位N着信ToS	最大量のデータを受信する上位Nのサービスのタイプを表示します。
上位N発信ToS	最大量のデータを送信する上位Nのサービスのタイプを表示します。

このレポートを使用して、次のことができます。

- トラフィックパフォーマンスのあらゆる局面を一度に表示します。
- トレンドを表示し、トラフィックパフォーマンスが期待値に一致しているかどうかを確認します。
- グラフ内の孤立した異常を特定し、予期しない使用率またはパフォーマンストレンドを検出します。

このレポートを起動するには、以下の手順を実行します。

1. NPSコンソールで、[レポート] ワークスペースに移動します。
2. [iSPIトラフィック] > [インタフェーストラフィック集計済み] > [ヘッドライン] を選択します。

ヘッドラインレポートでは以下の値がデフォルトに設定されます。

- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- トポロジグループのトラッキング方法 = SCDタイプ1

ヒント: HPEでは、ヘッドラインレポートの生成と配信をスケジュール設定することを推奨しています。スケジュールを設定しないと、NNM iSPI Performance for Trafficでのヘッドラインレポートの生成に時間が相当かかる可能性があります。

インタフェーストラフィック集計済み上位N分析レポート

NPSに格納されるトラフィックデータはNNM iSPI Performance for Trafficによってカテゴリ分けされて、クエリーの効率的な実行に利用されます。また、これによって大量のデータがより長期間にわたって保有されます。次のレポートを使用すると、カテゴリ分けされたトラフィックデータをデータの保有期間、トラフィックのタイプ(アプリケーション、ToS、会話にマップされたトラフィック)、およびトラフィックフローの送信元または送信先ごとに分析できます。

利用可能なインタフェーストラフィック集計済み上位Nレポート

レポート	説明
インタフェーストラフィック集計済みToSの上位アプリケーション	選択したToS値について、ネットワーク全体で上位のアプリケーションを表示します。

レポート	説明
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位会話	選択したアプリケーションについて、ネットワーク全体で上位の話者 (送信元と送信先のペア) を表示します。
インタフェーストラフィック集計済みToSの上位会話	選択したToS値について、ネットワーク全体で上位の話者 (送信元と送信先のペア) を表示します。
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位送信先	選択したアプリケーションについて、ネットワーク全体で他のホストから受信しているデータパケットが上位の送信先ホストを表示します。
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位送信元	選択したアプリケーションにマップされたフローパケットの生成がネットワーク全体で上位のホスト (データパケットの送信元ホスト) を表示します。
インタフェーストラフィック集計済みToSの上位送信元	選択したToS値とのフローパケットの生成がネットワーク全体で上位の送信元ホスト (データパケットの送信元ホスト) を表示します。
インタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーション	ネットワーク全体でネットワークトラフィックに影響を与える上位Nアプリケーションを表示します。
インタフェーストラフィック集計済み上位会話	ネットワーク全体で上位の話者 (送信元と送信先のペア) を表示します。このレポートを使用して、2つのホスト間におけるデータのフローを監視できます。
インタフェーストラフィック集計済み上位送信先	ネットワーク全体でデータパケットの受信量が最も多い上位Nホストを表示します。
インタフェーストラフィック集計済み上位インタフェース	ネットワーク全体で送受信トラフィックの量が最も多い上位Nインタフェースを表示します。
インタフェーストラフィック集計済み上位送信元	ネットワーク全体で全送信先に送信しているデータパケット量が最も多い上位Nホストを表示します。
インタフェーストラフィック集計済み上位ToS (サービスのタイプ)	選択したサービスのタイプ (ToS) 値に基づいて、ネットワークトラフィックに占める上位を表示します。
インタフェーストラフィック集計済み上位送信先ポート	ネットワーク全体でデータパケットの受信量が最も多い上位N送信先ポートを表示します。
インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元	選択した送信先ポートに対してデータパケットを送信している上位送信元ホストを表示します。
インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先	選択した送信先ポートでデータパケットを受信している上位送信先ホストを表示します。
インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話	選択した送信先ポートについて、ネットワーク全体で上位話者を表示します。

NPSホームページに利用可能なレポートをすべて表示すると、ユーザビリティ上の大きな問題が発生する可能性があります。さまざまなタイプの上位Nレポートを交互に選択すると、時間のかかるプロセスが繰り返し発生する可能性があります。この問題を克服するために、NNM iSPI Performance for Trafficでは、すべてのインタフェーストラフィック集計済み上位Nレポートの開始点として機能する、上位N分析レポートを選択可能です。

このレポートでは、選択したメトリックによってネットワーク要素をランク付けします。このレポートでは、データが棒グラフ形式または時系列グラフ形式で表示されます。大規模な環境においては、NPSは上位Nレポートよりも速く上位Nテーブルレポートを生成できます。上位N要素をできるだけ早く確認するには、上位Nレポートではなく上位Nテーブルレポートを使用してください。

上位Nレポートを起動するには、以下の手順を実行します。

1. NPSコンソールで、[レポート] ワークスペースに移動します。
2. [iSPIトラフィック] > [インタフェーストラフィック集計済み] をクリックします。
3. [上位N分析] を選択します。
4. [レポートタイプの選択] パネルで起動するレポートのタイプを選択し、[選択を確認] をクリックします。デフォルトは上位インタフェースです。NNM iSPI Performance for Trafficによって起動されるレポートは、各オプションで以下ようになります。
 - 上位インタフェース: インタフェーストラフィック集計済み上位インタフェースのレポートが起動します。
 - 上位送信元: インタフェーストラフィック集計済み上位送信元のレポートが起動します。
 - 上位送信先: インタフェーストラフィック集計済み上位送信先のレポートが起動します。
 - 上位会話: インタフェーストラフィック集計済み上位会話のレポートが起動します。
 - 上位サービスのタイプ: インタフェーストラフィック集計済み上位ToS (サービスのタイプ) のレポートが起動します。
 - 上位送信先ポート: インタフェーストラフィック集計済み上位送信先ポートのレポートが起動します。

次のいずれかのオプションを選択した場合のみ、以下の手順を実行します。

- **上位アプリケーション**
 - a. [アプリケーション名] を選択します。

注: NNM iSPI Performance for Trafficでは、アプリケーションのリストはアルファベット順にソートされます。

NNM iSPI Performance for Trafficによって、レポートデータを分析するためのアプリケーション名が設定されます。

- b. 選択したアプリケーションにマップされているトラフィックにフィルターを適用するには、次のいずれかのトポロジフィルターを選択します。
 - アプリケーションの送信元: インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位送信元のレポートが起動します。
 - アプリケーションの送信先: インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位送信先のレポートが起動します。
 - アプリケーションの会話: インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位会話のレポートが起動します。
- c. [選択を確認] をクリックします。

- **上位のサービスのタイプ**

- a. [サービスのタイプ]を選択します。

注: NNM iSPI Performance for Trafficでは、サービスのタイプのリストはアルファベット順にソートされます。

NNM iSPI Performance for Trafficによって、レポートデータを分析するためのサービスのタイプが設定されます。

- b. 選択したサービスのタイプにマップされているトラフィックにフィルターを適用するには、次のいずれかのトポロジフィルターを選択します。
 - ToSのアプリケーション: インタフェーストラフィック集計済みToSの上位アプリケーションのレポートが起動します。
 - ToSの送信元: インタフェーストラフィック集計済みToSの上位送信元のレポートが起動します。
 - ToSの会話: インタフェーストラフィック集計済みToSの上位会話のレポートが起動します。
- c. [選択を確認]をクリックします。

- **上位送信先ポート**

- a. [送信先ポート]を選択します。

注: NNM iSPI Performance for Trafficでは、送信先ポートのリストはアルファベット順にソートされます。

NNM iSPI Performance for Trafficによって、レポートデータを分析するよう選択した送信先ポートが設定されます。

- b. 選択した送信先ポートにマップされているトラフィックにフィルターを適用するには、以下のいずれかのトポロジフィルターを選択します。
 - 送信先ポートの送信元: インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポートが起動します。
 - 送信先ポートの送信先: インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポートが起動します。
 - 送信先ポートの会話: インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポートが起動します。
- c. [選択を確認]をクリックします。

上位N分析レポートのデフォルトオプションは上位インタフェースです。上位N分析レポートが起動されるたびに、このオプションがNNM iSPI Performance for Trafficで自動的に選択されます。[トポロジフィルター]タブまたはドリルダウンオプションを使用してアプリケーション名またはサービスのタイプをトポロジフィルターに選択した場合、対応するレポートタイプ(上位アプリケーションまたは上位ToS)が「上位N分析」レポートの次回起動時にNNM iSPI Performance for Trafficによって自動的に選択されます。


上位N分析レポートの[実行プロンプト]リンクを使用して、トポロジフィルターを設定できます。トポロジフィルターは、いったん選択した後は、リセット機能のみで削除できます。ただし、レポート用に選択できるフィルターの種類は、レポートに表示されるデータのタイプによって異なります。たとえば、上位ToSレポートで[アプリケーション名]としてトポロジフィルターを設定した場合でも、[アプリケーション名]は上位ToSレポートのトポロジセクターに含まれていないため、NNM iSPI Performance for Trafficは設定したフィルターを使用しません。

特定のレポートで、フィルターを適用可能なフィールドを確認するには、まずレポートを起動してから、次に[実行プロンプト]リンクを使用してトポロジセクターを起動します。

BIポータルでインタフェーストラフィック集計済み上位Nレポートをリストするには、以下の手順を実行します。

デフォルトでは、インタフェーストラフィック集計済み上位NのレポートはBIサーバー共有フォルダで非表示です。NPSのホームページで **[BIサーバー]** を選択し、**[共有フォルダ]** > **[iSPIトラフィック]** を選択し、次に **[インタフェーストラフィック集計済み]** フォルダを選択しても、これらのフォルダは表示されません。

共有フォルダでこれらのレポートを表示するには、以下の手順を実行します。

1. NPSホームページで **[BIサーバー]** をクリックします。
2. **[ポータル]** をクリックしてHPE NNM iSPI Performance BI Portalを起動します。
3.  **[My Area Options]** > **[My Preferences]** をクリックします。
4. **[Show hidden entries]** オプションを選択します。
5. **[OK]** をクリックします。

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
5. 以下の行を追加します。

```
enable.topn.subtypes.tos=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
5. 以下の行を削除します。

```
enable.topn.subtypes.tos=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

上記の手順を使用してデータ収集を有効化または無効化すると、以下の3つのレポートに適用されます。

- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポート

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポートは、上位Nレポートです。このレポートでは、ネットワーク全体における上位アプリケーションが特定のToS値に対して表示されます。このレポートは、NPSの状況依存ナビゲーション機能を使用して生成されます。そのため、まずインタフェーストラフィック集計済み上位TOS (サービスのタイプ) のレポートを起動して、ToS値を選択した後、このレポートを起動することをお勧めします。レポートでは、選択したToS値に対する上位アプリケーションが表示されます。

たとえば、ToS値として25を選択し、「ボリューム-バイト数 (入力) (合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力) (合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、この25というToS値によって特徴付けられるネットワークトラフィックに影響を与えた、データが最大量の上位アプリケーションが表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位NIに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素 (送信元、送信先、およびアプリケーション) を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化 = アプリケーション名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位/下位「N」= 上位10

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリーを実行します。このため、これはオプションとして提供されています。

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位会話のレポート

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位会話のレポートは、上位Nレポートです。このレポートでは、ネットワーク全体における上位話者 (送信元と送信先のペア) が特定のアプリケーションに対して表示されます。このレポートは、NPSの状況依存ナビゲーション機能を使用して生成されます。そのため、まずインタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポートを起動して、アプリケーションを選択した後、このレポートを起動することをお勧めします。

デフォルトにより、このレポートには、送信先ホストのみでグループ化されたデータが表示されます。ただし、(元の「グループ化」メトリックである送信先ホスト名を保持する一方で) 送信先ホスト名を「グループ化」メトリックとして追加した場合は、送信元と送信先のペアごと、つまり各会話に対して、上位N値を表示できます。たとえば、アプリケーションとしてSNMPを選択し、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、SNMPネットワークトラフィックに影響を与える上位話者が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素 (送信元、送信先、およびアプリケーション) を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位会話のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位/下位「N」= 上位10

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリーを実行します。このため、これはオプションとして提供されています。

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
5. 以下の行を追加します。

```
enable.topn.subtypes.tos=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

- 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
- 以下の行を削除します。

```
enable.topn.subtypes.tos=true
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
- 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

上記の手順を使用してデータ収集を有効化または無効化すると、以下の3つのレポートに適用されます。

- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポート

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポートは、上位Nレポートです。このレポートでは、ネットワーク全体における上位話者(送信元と送信先のペア)が特定のToS値に対して表示されます。このレポートは、NPSの状況依存ナビゲーション機能を使用して生成されます。そのため、まずインタフェーストラフィック集計済み上位TOS(サービスのタイプ)のレポートを起動して、ToS値を選択した後、このレポートを起動することをお勧めします。

デフォルトにより、このレポートには、送信先ホストのみでグループ化されたデータが表示されます。ただし、(元の「グループ化」メトリックである送信先ホスト名を保持する一方で)送信元ホスト名を「グループ化」メトリックとして追加した場合は、各会話に対して上位N値を表示できます。たとえば、ToS値として25を選択し、「ボリューム・バイト数(入力)(合計)」メトリックと「ボリューム・バイト数(出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、ToS値が25のネットワークトラフィックに影響を与えている上位話者が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間

- メトリック= ボリューム- バイト数 (入力)(合計)、ボリューム- バイト数 (出力)(合計)
- 上位/下位「N」= 上位 10

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリーを実行します。このため、これはオプションとして提供されています。

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信先のレポート

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信先のレポートは、上位Nレポートです。このレポートでは、ネットワーク全体における上位ホスト (異なるホストからデータパケットを受信します) が特定のアプリケーションに対して表示されます。このレポートは、NPSの状況依存ナビゲーション機能を使用して生成されます。そのため、まずインタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポートを起動して、アプリケーションを選択した後、このレポートを起動することをお勧めします。レポートでは、選択したアプリケーションに対する上位送信先ホストが表示されます。たとえば、アプリケーションとしてSNMPを選択し、「ボリューム- バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム- バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、SNMPに対して最大量のデータ (バイト数) を受信したホストが表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素 (送信元、送信先、およびアプリケーション) を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名] としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信先のレポートは、以下の値がデフォルトに設定されます。

- グループ化 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去 1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック= ボリューム- バイト数 (入力)(合計)、ボリューム- バイト数 (出力)(合計)
- 上位/下位「N」= 上位 10

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリーを実行します。このため、これはオプションとして提供されています。

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信元のレポート

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信元のレポートは、上位Nレポートです。このレポートでは、特定のアプリケーションにマップされるフローパケットを生成する、ネットワーク全体における上位送信元ホスト（データパケットを送信するホスト）が表示されます。このレポートは、NPSの状況依存ナビゲーション機能を使用して生成されます。そのため、まずインタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポートを起動して、アプリケーションを選択した後、このレポートを起動することをお勧めします。レポートでは、選択したアプリケーションに対する上位送信元ホストが表示されます。たとえば、アプリケーションとしてSNMPを選択し、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、最大量のSNMPトラフィックを送信した上位ホストが表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素（送信元、送信先、およびアプリケーション）を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信元のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化 = 送信元ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位/下位「N」= 上位10

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリーを実行します。このため、これはオプションとして提供されています。

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

- 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

- 以下の行を追加します。

```
enable.topn.subtypes.tos=true
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

- 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

- Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。

- 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

- 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

- 以下の行を削除します。

```
enable.topn.subtypes.tos=true
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

- 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

上記の手順を使用してデータ収集を有効化または無効化すると、以下の3つのレポートに適用されます。

- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポート

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポートは、上位Nレポートです。このレポートでは、特定のToS値を持つフローパケットを生成する、ネットワーク全体における上位送信元ホスト（データパケットを送信するホスト）が表示されます。このレポートは、NPSの状況依存ナビゲーション機能を使用して生成されます。そのため、まずインタフェーストラフィック集計済み上位TOS（サービスのタイプ）のレポートを起動して、ToS値を選択した後、このレポートを起動することをお勧めします。レポートでは、選択したToS値に対する上位送信元ホストが表示されます。

たとえば、ToS値として25を選択し、「ボリューム-バイト数（入力）（合計）」メトリックと「ボリューム-バイト数（出力）（合計）」メトリックを使用してレポートを生成した場合、ToS値が25のフローパケットに対して最大量のデータ（バイト数）を送信した上位ホストが表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素（送信元、送信先、およびアプリケーション）を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化 = 送信元ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数（入力）（合計）、ボリューム-バイト数（出力）（合計）
- 上位/下位「N」= 上位10

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリーを実行します。このため、これはオプションとして提供されています。

インタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポート

インタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポートは、上位Nレポートです。このレポートでは、ネットワークトラフィックに影響を与える（ネットワーク全体における）上位Nアプリケーションが表示されます。NNM iSPI Performance for Trafficには、事前定義されたアプリケーションディレクトリがあります。NNM iSPI Performance for Trafficの設定フォームを使用すると、既存のアプリケーション定義を変更したり、新しいアプリケーション定義を作成したりすることが可能です。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されず。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

上位アプリケーションレポートでは、他のレポートでは使用できない次の帯域幅メトリックを追加に選択できます。

- 帯域幅 - Mbps (入力)(平均)
- 帯域幅 - Mbps (入力)(最大)
- 帯域幅 - Mbps (入力)(最小)
- 帯域幅 - Mbps (出力)(平均)
- 帯域幅 - Mbps (出力)(最大)
- 帯域幅 - Mbps (出力)(最小)
- 帯域幅使用率 (平均)
- 帯域幅使用率 (最大)
- 帯域幅使用率 (最小)

インタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化 = アプリケーション名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム - バイト数 (入力)(合計)、ボリューム - バイト数 (出力)(合計)
- 上位/下位「N」= 上位10

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリーを実行します。このため、これはオプションとして提供されています。

インタフェーストラフィック集計済み上位会話のレポート

会話とは、2つのホスト間におけるデータのフローを意味します。NNM iSPI Performance for Traffic上位会話レポートを使用すると、環境内における上位話者を監視できます。

デフォルトで、インタフェーストラフィック集計済み上位会話のレポートには、データパケットを受信する(ネットワーク全体における)上位Nホストが表示されます。ただし、(元の「グループ化」メトリックである送信先ホスト名を保持する一方で)送信元ホスト名を「グループ化」メトリックとして追加した場合は、各会話に対してトラフィックパフォーマンスインジケータの上位N値を表示できます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インターフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素 (送信元、送信先、およびアプリケーション) を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インターフェースごとに実行されます。

インターフェーストラフィック集計済み上位会話のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリーを実行します。このため、これはオプションとして提供されています。

インターフェーストラフィック集計済み上位送信先のレポート

インターフェーストラフィック集計済み上位送信先のレポートは、上位Nレポートです。このレポートでは、データパケットを受信する (ネットワーク全体における) 上位Nホストが表示されます。たとえば、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、最大のデータ (バイト数) を受信した上位Nホスト (データパケットの受信者) のホスト名が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インターフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素 (送信元、送信先、およびアプリケーション) を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インターフェースごとに実行されます。

インターフェーストラフィック集計済み上位送信先のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリーを実行します。このため、これはオプションと

して提供されています。



インタフェーストラフィック集計済み上位インタフェースのレポート

インタフェーストラフィック集計済み上位インタフェースのレポートでは、選択したメトリックによってフロー対応のインタフェースまたはノードをランク付けします。極端な状態で実行されたインタフェースまたはノードを特定するには、このレポートを使用します。このレポートを使用して、使用率のレベルが異常な要素の履歴データを分析できます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

インタフェーストラフィック集計済み上位インタフェースのレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- 要素ごとのグループ化 = 修飾 インタフェース名
- 開始日/時間 = デフォルトの時間範囲およびデータベースのデータによって異なる
- 時間範囲 = 過去1時間
- 時間 = すべて
- 曜日 = すべて
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

このレポートでは、デフォルトで修飾 インタフェース名ごとにデータがグループ化されます。複数のグループ化属性を選択するには、 ([新しいグループ化を追加]) ボタンを使用します。グループ化属性を削除するには、 ([グループ化を削除]) ボタンを使用します。

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリーを実行します。このため、これはオプションとして提供されています。

インタフェーストラフィック集計済み上位送信元のレポート

インタフェーストラフィック集計済み上位送信元のレポートは、上位Nレポートです。このレポートでは、異なる送信先にデータパケットを送信する(ネットワーク全体における)上位Nホストが表示されます。たとえば、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、最大量のデータ(バイト数)を送信した上位Nホスト(データパケットの送信者)のホスト名が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保

持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応 インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み上位送信元のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信元ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリーを実行します。このため、これはオプションとして提供されています。

インタフェーストラフィック集計済み上位ToS (サービスのタイプ) のレポート

インタフェーストラフィック集計済み上位ToS (サービスのタイプ) のレポートは、上位Nレポートです。このレポートでは、ネットワーク全体においてトラフィックに最も影響を与えている要素が、ToS (サービスのタイプ) 値に基づいて表示されます。

たとえば、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、データ量 (バイト数) が最大であるフロー/パケット (受信および送信) のToS値が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

上位ToS値をクリックしてフィルターを設定すると、より詳細な分析を実行することができます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素 (送信元、送信先、およびアプリケーション) を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[-1]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応 インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み上位ToS (サービスのタイプ) のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = サービスのタイプ
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリーを実行します。このため、これはオプションとして提供されています。

インタフェーストラフィック集計済み上位送信先ポートのレポート

インタフェーストラフィック集計済み上位送信先ポートのレポートは上位Nレポートです。これらのレポートには、データパケットを受信するネットワーク全体での、上位N送信先ポート¹

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[-1]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み上位送信先ポートのレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信先ポート
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数(入力)(合計)、ボリューム-バイト数(出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリーを実行します。このため、これはオプションとして提供されています。

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。

¹データパケットの受信者

2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

5. 以下の行を追加します。

```
topn.subtypes.dstport=true
```

```
enable.srcordst.dstport=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。

2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

5. 以下の行を削除します。

```
topn.subtypes.dstport=true
```

```
enable.srcordst.dstport=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

上記の手順を使用してデータ収集を有効化または無効化すると、以下の3つのレポートに適用されます。

- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポート
- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポート
- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポート

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポートは上位Nレポートです。このレポートでは、特定の送信先ポートにフローパケットを送信する、ネットワーク全体における上位送信元ホスト(データパケットを送信するホスト)が表示されます。このレポートは、NPSの状況依存ナビゲーション機能を使用して生成

されます。そのため、まずインタフェーストラフィック集計済み上位送信先ポートのレポートを起動して、送信先ポートを選択した後、このレポートを起動することをお勧めします。

たとえば、送信先ポートとして160を選択し、「ボリューム-バイト数(入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数(出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、送信先ポート160にデータパケットを送信する上位送信元が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポートは、以下の値がデフォルトに設定されます。

- グループ化する要素 = 送信元ホスト名
- 時間範囲 = 過去1日
- 粒度 = 1時間
- メトリック = ボリューム-バイト数(入力)(合計)、ボリューム-バイト数(出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリーを実行します。このため、これはオプションとして提供されています。

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

5. 以下の行を追加します。

```
topn.subtypes.dstport=true
```

```
enable.srcondst.dstport=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。

2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

- 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
- 以下の行を削除します。

```
topn.subtypes.dstport=true
enable.srcordst.dstport=true
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
- 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

上記の手順を使用してデータ収集を有効化または無効化すると、以下の3つのレポートに適用されます。

- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポート
- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポート
- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポート

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポートは上位Nレポートです。このレポートでは、特定の送信先ポートでフローパケットを受信する、ネットワーク全体における上位送信先ホスト（データパケットを受信するホスト）を表示します。

たとえば、送信先ポートとして160を選択し、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、送信先ポートが160のデータパケットを受信する上位送信先が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インターフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素 (送信元、送信先、およびアプリケーション) を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インターフェースごとに実行されます。

インターフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポートは、以下の値がデフォルトに設定されます。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリーを実行します。このため、これはオプションとして提供されています。

インターフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

5. 以下の行を追加します。

```
topn.subtypes.dstport=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。

2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
5. 以下の行を削除します。

```
topn.subtypes.dstport=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポートは上位Nレポートです。このレポートでは、特定の送信先ポートのネットワーク全体における上位話者を表示します。デフォルトで、このレポートには、送信先ホスト名のみでグループ化されたデータが表示されます。ただし、送信元ホスト名を「グループ化」メトリックとして追加する場合は、各会話に対して上位N値を表示できます。

たとえば、送信先ポートとして160を選択し、「ボリューム-バイト数(入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数(出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、送信先ポートが160のネットワークトラフィックに影響を与える上位話者が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポートは、以下の値がデフォルトに設定されます。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数(入力)(合計)、ボリューム-バイト数(出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリを実行します。このため、これはオプションとして提供されています。

インタフェーストラフィック集計済み上位Nチャート分析レポート

NPSに格納されるトラフィックデータはNNM iSPI Performance for Trafficによってカテゴリ分けされて、クエリの効率的な実行に利用されます。また、これによって大量のデータがより長期間にわたって保有されます。次のレポートを使用すると、カテゴリ分けされたトラフィックデータをデータの保有期間、トラフィックのタイプ (アプリケーション、ToS、会話にマップされたトラフィック)、およびトラフィックフローの送信元または送信先ごとに分析できます。

利用可能なインタフェーストラフィック集計済み上位Nチャートのレポート

レポート	説明
インタフェーストラフィック集計済みToSの上位アプリケーション	選択したToS値について、ネットワーク全体で上位のアプリケーションを表示します。
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位会話	選択したアプリケーションについて、ネットワーク全体で上位の話者 (送信元と送信先のペア) を表示します。
インタフェーストラフィック集計済みToSの上位会話	選択したToS値について、ネットワーク全体で上位の話者 (送信元と送信先のペア) を表示します。
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位送信先	選択したアプリケーションについて、ネットワーク全体で他のホストから受信しているデータパケットが上位の送信先ホストを表示します。
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位送信元	選択したアプリケーションにマップされたフローパケットの生成がネットワーク全体で上位のホスト (データパケットの送信元ホスト) を表示します。
インタフェーストラフィック集計済みToSの上位送信元	選択したToS値とのフローパケットの生成がネットワーク全体で上位の送信元ホスト (データパケットの送信元ホスト) を表示します。
インタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーション	ネットワーク全体でネットワークトラフィックに影響を与える上位Nアプリケーションを表示します。
インタフェーストラフィック集計済み上位会話	ネットワーク全体で上位の話者 (送信元と送信先のペア) を表示します。このレポートを使用して、2つのホスト間におけるデータのフローを監視できます。
インタフェーストラフィック集計済み上位送信先	ネットワーク全体でデータパケットの受信量が最も多い上位Nホストを表示します。
インタフェーストラフィック集計済み上位インタフェース	ネットワーク全体で送受信トラフィックの量が最も多い上位Nインタフェースを表示します。

レポート	説明
インターフェーストラフィック集計済み上位送信元	ネットワーク全体で全送信先に送信しているデータパケット量が最も多い上位Nホストを表示します。
インターフェーストラフィック集計済み上位ToS (サービスのタイプ)	選択したサービスのタイプ (ToS) 値に基づいて、ネットワークトラフィックに占める上位を表示します。
インターフェーストラフィック集計済み上位送信先ポート	ネットワーク全体でデータパケットの受信量が最も多い上位N送信先ポートを表示します。
インターフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元	選択した送信先ポートに対してデータパケットを送信している上位送信元ホストを表示します。
インターフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先	選択した送信先ポートでデータパケットを受信している上位送信先ホストを表示します。
インターフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話	選択した送信先ポートについて、ネットワーク全体で上位話者を表示します。

NPSホームページに利用可能なレポートをすべて表示すると、ユーザビリティ上の大きな問題が発生する可能性があります。さまざまなタイプの上位Nチャートレポートを交互に選択すると、時間のかかるプロセスが繰り返し発生する可能性があります。この問題を克服するために、NNM iSPI Performance for Trafficでは、すべてのインターフェーストラフィック集計済み上位Nチャートレポートの開始点として機能する、上位Nチャート分析レポートを選択可能です。

上位Nチャートレポートを起動するには、以下の手順を実行します。

1. NPSコンソールで、[レポート] ワークスペースに移動します。
2. [iSPIトラフィック] > [インターフェーストラフィック] > [インターフェーストラフィック集計済み] をクリックします。
3. [上位Nチャート分析] を選択します。
4. [レポートタイプの選択] パネルで起動するレポートのタイプを選択し、[選択を確認] をクリックします。デフォルトの選択は上位 インタフェースとなっており、インターフェーストラフィック集計済み - 上位 インタフェース - 上位Nチャートレポートが起動します。NNM iSPI Performance for Trafficによって起動されるレポートは、各オプションで以下ようになります。
 - 上位送信元: インターフェーストラフィック集計済み - 上位送信元 - 上位Nチャートレポートが起動します。
 - 上位送信先: インターフェーストラフィック集計済み - アプリケーションの送信先 - 上位Nチャートレポートが起動します。
 - 上位会話: インターフェーストラフィック集計済み - 上位会話 - 上位Nチャートレポートが起動します。
 - 上位ToS: インターフェーストラフィック集計済み - 上位ToS (サービスのタイプ) - 上位Nチャートレポートが起動します。
 - 上位送信先ポート: インターフェーストラフィック集計済み - 上位送信先ポートのレポートが起動します。

次のいずれかのオプションを選択した場合のみ、以下の手順を実行します。

• **上位アプリケーション**

- a. [アプリケーション名]を選択します。

注: NNM iSPI Performance for Trafficでは、アプリケーションのリストはアルファベット順にソートされます。

NNM iSPI Performance for Trafficによって、レポートデータを分析するためのアプリケーション名が設定されます。

- b. 選択したアプリケーションにマップされているトラフィックにフィルターを適用するには、次のいずれかのトポロジフィルターを選択します。
- アプリケーションの送信元: インターフェーストラフィック集計済み - アプリケーションの送信元 - 上位Nチャートレポートが起動します。
 - アプリケーションの送信先: インターフェーストラフィック集計済み - アプリケーションの送信先 - 上位Nチャートレポートが起動します。
 - アプリケーションの会話: インターフェーストラフィック集計済み - アプリケーションの会話 - 上位Nチャートレポートが起動します
- c. [選択を確認]をクリックします。

• **上位のサービスのタイプ**

- a. [サービスのタイプ]を選択します。

注: NNM iSPI Performance for Trafficでは、サービスのタイプのリストはアルファベット順にソートされます。

NNM iSPI Performance for Trafficによって、レポートデータを分析するためのサービスのタイプが設定されます。

- b. 選択したサービスのタイプにマップされているトラフィックにフィルターを適用するには、次のいずれかのトポロジフィルターを選択します。
- ToSのアプリケーション: インターフェーストラフィック集計済み - ToSのアプリケーション - 上位Nチャートレポートを起動します。
 - ToSの送信元: インターフェーストラフィック集計済み - ToSの送信元 - 上位Nチャートレポートが起動します。
 - ToSの会話: インターフェーストラフィック集計済み - ToSの会話 - 上位Nチャートレポートが起動します
- c. [選択を確認]をクリックします。

• **上位送信先ポート**

- a. [送信先ポート]を選択します。

注: NNM iSPI Performance for Trafficでは、送信先ポートのリストはアルファベット順にソートされます。

NNM iSPI Performance for Trafficによって、レポートデータを分析するよう選択した送信先ポートが設定されます。

- b. 選択した送信先ポートにマップされているトラフィックにフィルターを適用するには、以下のいずれかのトポロジフィルターを選択します。
- 送信先ポートの送信元: インターフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のチャートレポートが起動します。

- 送信先ポートの送信先: インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のチャートレポートが起動します。
- 送信先ポートの会話: インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のチャートレポートが起動します。

c. **[選択を確認]** をクリックします。

上位Nチャート分析レポートのデフォルトオプションは上位 インタフェースです。上位Nチャート分析レポートを起動するたびに、このオプションがNNM iSPI Performance for Trafficで自動的に選択されます。[トポロジフィルター] タブまたはドリルダウンオプションを使用してアプリケーション名またはサービスのタイプをトポロジフィルターに選択した場合、対応するレポートタイプ(上位アプリケーションまたは上位ToS)が「上位Nチャート分析」レポートの次回起動時にNNM iSPI Performance for Trafficによって自動的に選択されます。

上位Nチャート分析レポートの[実行プロンプト] リンクを使用して、トポロジフィルターを設定できます。いったん選択したフィルターを削除するには、リセット機能を使う必要があります。ただし、レポート用に選択できるフィルターの種類は、レポートに表示されるデータのタイプによって異なります。たとえば、上位ToSレポートで[アプリケーション名]としてトポロジフィルターを設定した場合でも、[アプリケーション名]は上位ToSレポートのトポロジセクターに含まれていないため、NNM iSPI Performance for Traffic は設定したフィルターを使用しません。

特定のレポートで、どのフィールドに対してフィルターを適用できるかを確認するには、該当するレポートのコンテキスト内でトポロジセクターを起動します。該当するレポートを起動してから、[プロンプト実行] リンクを使ってトポロジセクターを起動する必要があります。

BIポータルでインタフェーストラフィック集計済み上位Nチャートレポートをリストするには、以下の手順を実行します。

デフォルトでは、インタフェーストラフィック集計済み上位NのレポートはBIサーバー共有フォルダで非表示です。NPSのホームページで**[BIサーバー]**を選択し、**[共有フォルダ]** > **[iSPIトラフィック]**を選択し、次に**[インタフェーストラフィック集計済み]**フォルダを選択しても、これらのフォルダは表示されません。

共有フォルダでこれらのレポートを表示するには、以下の手順を実行します。

1. NPSホームページで**[BIサーバー]**をクリックします。
2. **[ポータル]**をクリックしてHPE NNM iSPI Performance BI Portalを起動します。



3. **[My Area Options]** > **[My Preferences]** をクリックします。

4. **[Show hidden entries]** オプションを選択します。

5. **[OK]** をクリックします。

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

- 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

- 以下の行を追加します。

```
enable.topn.subtypes.tos=true
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

- 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

- Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。

- 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

- 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

- 以下の行を削除します。

```
enable.topn.subtypes.tos=true
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

- 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/0V/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

上記の手順を使用してデータ収集を有効化または無効化すると、以下の3つのレポートに適用されます。

- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポート

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポートは、上位Nチャートレポートです。このレポートでは、ネットワーク全体における上位アプリケーションが線グラフで特定のToS値に対して表示されます。このレポートは、NPSの状況依存ナビゲーション機能を使用して生成されます。そのため、まずインタフェーストラフィック集計済み上位ToS (サービスのタイプ) のレポートを起動して、ToS値を選択した後、このレポートを起動することをお勧めします。レポートでは、選択したToS値に対する上位アプリケーションが表示されます。

たとえば、ToS値として25を選択し、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、この25というToS値によって特徴付けられるネットワークトラフィックに影響を与えた、データが最大量の上位アプリケーションが表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素 (送信元、送信先、およびアプリケーション) を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = アプリケーション名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位会話のレポート

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位会話のレポートは、上位Nチャートレポートです。このレポートでは、ネットワーク全体における上位話者 (送信元と送信先のペア) が線グラフで特定のアプリケーションに対して表示されます。このレポートは、NPSの状況依存ナビゲーション機能を使用して生成されます。そのため、まずインタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポートを起動して、アプリケーションを選択した後、このレポートを起動することをお勧めします。デフォルトにより、このレポートには、送信先ホストのみでグループ化されたデータが表示されます。ただし、(元の「グループ化」メトリックである送信元ホスト名を保持する一方で) 送信元ホスト名を「グループ化」メトリックとして追加した場合は、送信元と送信先のペアごと、つまり各会話に対して、上位N値を表示できます。

たとえば、アプリケーションとしてSNMPを選択し、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、SNMPネットワークトラフィックに影響を与える上位話者が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されず。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位会話のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = アプリケーション名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数(入力)(合計)、ボリューム-バイト数(出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
5. 以下の行を追加します。
enable.topn.subtypes.tos=true
6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
5. 以下の行を削除します。

```
enable.topn.subtypes.tos=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

上記の手順を使用してデータ収集を有効化または無効化すると、以下の3つのレポートに適用されます。

- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポート

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポートは、上位Nチャートレポートです。このレポートでは、ネットワーク全体における上位話者（送信元と送信先のペア）が線グラフで特定のToS値に対して表示されます。このレポートは、NPSの状況依存ナビゲーション機能を使用して生成されます。そのため、まずインタフェーストラフィック集計済み上位TOS（サービスのタイプ）のレポートを起動して、ToS値を選択した後、このレポートを起動することをお勧めします。デフォルトにより、このレポートには、送信先ホストのみでグループ化されたデータが表示されます。ただし、（元の「グループ化」メトリックである送信先ホスト名を保持する一方で）送信元ホスト名を「グループ化」メトリックとして追加した場合は、送信元と送信先のペアごと、つまり各会話に対して、上位N値を表示できます。

たとえば、ToS値として25を選択し、「ボリューム-バイト数（入力）（合計）」メトリックと「ボリューム-バイト数（出力）（合計）」メトリックを使用してレポートを生成した場合、ToS値が25のネットワークトラフィックに影響を与えている上位話者が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されず。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数(入力)(合計)、ボリューム-バイト数(出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信先のレポート

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信先のレポートは、上位Nチャートレポートです。このレポートでは、ネットワーク全体における上位ホスト(異なるホストからデータパケットを受信するホスト)が線グラフで特定のアプリケーションに対して表示されます。このレポートは、NPSの状況依存ナビゲーション機能を使用して生成されます。そのため、まずインタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポートを起動して、アプリケーションを選択した後、このレポートを起動することをお勧めします。レポートでは、選択したアプリケーションに対する上位送信先ホストが表示されます。

たとえば、アプリケーションとしてSNMPを選択し、「ボリューム-バイト数(入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数(出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、SNMPに対して最大量のデータ(バイト数)を受信したホストが表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されず。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信先のレポートは、以下の値がデフォルトに設定されます。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数(入力)(合計)、ボリューム-バイト数(出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信元のレポート

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信元のレポートは、上位Nチャートレポートです。このレポートでは、特定のアプリケーションにマップされるフローパケットを生成する、ネットワーク全体における上位送信元ホスト（データパケットを送信するホスト）が線グラフで表示されます。このレポートは、NPSの状況依存ナビゲーション機能を使用して生成されます。そのため、まずインタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポートを起動して、アプリケーションを選択した後、このレポートを起動することをお勧めします。レポートでは、選択したアプリケーションに対する上位送信元ホストが表示されます。

たとえば、アプリケーションとしてSNMPを選択し、「ボリューム-バイト数(入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数(出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、最大量のSNMPトラフィックを送信した上位ホストが表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素（送信元、送信先、およびアプリケーション）を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されず、上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信元のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信元ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数(入力)(合計)、ボリューム-バイト数(出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
5. 以下の行を追加します。

```
enable.topn.subtypes.tos=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
5. 以下の行を削除します。

```
enable.topn.subtypes.tos=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

上記の手順を使用してデータ収集を有効化または無効化すると、以下の3つのレポートに適用されます。

- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポート

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポートは、上位Nチャートレポートです。このレポートでは、特定のToS値を持つフロー/パケットを生成する、ネットワーク全体における上位送信元ホスト（データパケットを送信するホスト）が表示されます。このレポートは、NPSの状況依存ナビゲーション機能を使用して生成されます。そのため、まずインタフェーストラフィック集計済み上位TOS（サービスのタイプ）のレポートを起動して、ToS値を選択した後、このレポートを起動することをお勧めします。レポートでは、選択したToS値に対する上位送信元ホストが表示されます。

たとえば、ToS値として25を選択し、「ボリューム-バイト数（入力）（合計）」メトリックと「ボリューム-バイト数（出力）（合計）」メトリックを使用してレポートを生成した場合、ToS値が25のフロー/パケットに対して最大量のデータ（バイト数）を送信した上位ホストが表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素（送信元、送信先、およびアプリケーション）を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信元ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数（入力）（合計）、ボリューム-バイト数（出力）（合計）
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポート

インタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポートは、上位Nチャートレポートです。このレポートでは、ネットワークトラフィックに影響を与える、ネットワーク全体における上位Nアプリケーションが線グラフで表示されます。

NNM iSPI Performance for Trafficには、事前定義されたアプリケーションディレクトリがあります。NNM iSPI Performance for Trafficの設定フォームを使用すると、既存のアプリケーション定義を変更したり、新しいアプリケーション定義を作成したりすることが可能です。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素（送信元、送信先、およびアプリケーション）を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

上位アプリケーションレポートでは、他のレポートでは使用できない次の帯域幅メトリックを追加に選択できます。

- 帯域幅 - Mbps（入力）（最小）
- 帯域幅 - Mbps（入力）（最大）
- 帯域幅 - Mbps（入力）（平均）
- 帯域幅 - Mbps（出力）（最小）

- 帯域幅 - Mbps (出力) (最大)
- 帯域幅 - Mbps (出力) (平均)
- 帯域幅使用率 (最小)
- 帯域幅使用率 (最大)
- 帯域幅使用率 (平均)

インタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = アプリケーション名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力) (合計)、ボリューム-バイト数 (出力) (合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済み上位会話のレポート

会話とは、2つのホスト間におけるデータのフローを意味します。NNM iSPI Performance for Traffic上位会話レポートを使用すると、環境内における上位話者を監視できます。

デフォルトでは、インタフェーストラフィック集計済み上位会話レポートでは、データパケットを受信する、ネットワーク全体における上位Nホストが線グラフで表示されます。ただし、(元の「グループ化」メトリックである送信先ホスト名を保持する一方で)送信元ホスト名を「グループ化」メトリックとして追加した場合は、送信元と送信先のペアごと、つまり各会話に対して、トラフィックパフォーマンスインジケータの上位N値を表示できます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み上位会話のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力) (合計)、ボリューム-バイト数 (出力) (合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済み上位送信先のレポート

インタフェーストラフィック集計済み上位送信先のレポートは、上位Nチャートレポートです。このレポートでは、データパケットを受信する、ネットワーク全体における上位Nホストが線グラフで表示されます。

たとえば、「ボリューム-バイト数 (入力) (合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力) (合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、最大量のデータ(バイト数)を受信した上位Nホスト(データパケットの受信者)のホスト名が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されず。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み上位送信先のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10



インタフェーストラフィック集計済み上位インタフェースのレポート

インタフェーストラフィック集計済み上位インタフェースのレポートでは、選択したメトリックによってフロー対応のインタフェースまたはノードをランク付けします。極端な状態で実行されたインタフェースまたはノードを特定するには、このレポートを使用します。このレポートを使用して、使用率のレベルが異常な要素の履歴データを分析できます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

インタフェーストラフィック集計済み上位インタフェースのレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- 要素ごとのグループ化 = 修飾インタフェース名
- 開始日/時間 = デフォルトの時間範囲およびデータベースのデータによって異なる
- 時間範囲 = 過去1時間
- 時間 = すべて
- 曜日 = すべて
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

このレポートでは、デフォルトで修飾インタフェース名ごとにデータがグループ化されます。複数のグループ化属性を選択するには、 ([新しいグループ化を追加]) ボタンを使用します。グループ化属性を削除するには、 ([グループ化を削除]) ボタンを使用します。

インタフェーストラフィック集計済み上位送信元のレポート

インタフェーストラフィック集計済み上位送信元のレポートは、上位Nチャートレポートです。このレポートでは、異なる送信先にデータパケットを送信する、ネットワーク全体における上位Nホストが線グラフで表示されます。

たとえば、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、最大量のデータ(バイト数)を送信した上位Nホスト(データパケットの送信者)のホスト名が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インターフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されません。上記の処理は、フロー対応インターフェースごとに実行されます。

インターフェーストラフィック集計済み上位送信元のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信元ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インターフェーストラフィック集計済み上位ToS (サービスのタイプ) のレポート

インターフェーストラフィック集計済み上位ToS (サービスのタイプ) のレポートは、上位Nチャートレポートです。このレポートでは、ネットワーク全体においてトラフィックに最も影響を与えている要素の線グラフが、ToS (サービスのタイプ) 値に基づいて表示されます。

たとえば、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、データ量 (バイト数) が最大であるフロー/パケット (受信および送信) のToS値が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

上位ToS値をクリックしてフィルターを設定すると、より詳細な分析を実行することができます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インターフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[-1]としてレポートに表示されません。上記の処理は、フロー対応インターフェースごとに実行されます。

インターフェーストラフィック集計済み上位ToS (サービスのタイプ) のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = サービスのタイプ
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済み上位送信先ポートのレポート

インタフェーストラフィック集計済み上位送信先ポートのレポートは上位Nチャートレポートです。これらのレポートには、データパケットを受信するネットワーク全体での、上位N送信先ポート¹

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データから下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[-1]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み上位送信先ポートのレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信先ポート
- 時間範囲 = 過去1日
- 粒度 = 1時間
- メトリック = ボリューム - バイト数 (入力)(合計)、ボリューム - バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。
- Windowsの場合

¹データパケットの受信者

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
5. 以下の行を追加します。
topn.subtypes.dstport=true
enable.srcordst.dstport=true
6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

5. 以下の行を削除します。

```
topn.subtypes.dstport=true
```

```
enable.srcordst.dstport=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

上記の手順を使用してデータ収集を有効化または無効化すると、以下の3つのレポートに適用されます。

- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポート
- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポート
- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポート

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポートは上位Nチャートレポートです。このレポートでは、特定の送信先ポートにフロー/パケットを送信する、ネットワーク全体における上位送信元ホスト(データパケットを送信するホスト)が線グラフで表示されます。

たとえば、送信先ポートとして160を選択し、「ボリューム-バイト数(入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数(出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、送信先ポート160にデータパケットを送信する上位送信元が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポートは、以下の値がデフォルトに設定されます。

- グループ化する要素 = 送信元ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

5. 以下の行を追加します。

```
topn.subtypes.dstport=true
```

```
enable.srcordst.dstport=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

- 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

- Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。

- 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

- 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

- 以下の行を削除します。

```
topn.subtypes.dstport=true
```

```
enable.srcordst.dstport=true
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

- 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

上記の手順を使用してデータ収集を有効化または無効化すると、以下の3つのレポートに適用されます。

- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポート
- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポート
- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポート

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポートは上位Nチャートレポートです。このレポートでは、特定の送信先ポートでフローパケットを受信する、ネットワーク全体における上位送信先ホスト(データパケットを受信するホスト)の線グラフを表示します。

たとえば、送信先ポートとして160を選択し、「ボリューム-バイト数(入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数(出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、送信先ポートが160のデータパケットを受信する上位送信先が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポートは、以下の値がデフォルトに設定されます。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数(入力)(合計)、ボリューム-バイト数(出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ

収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

5. 以下の行を追加します。

```
topn.subtypes.dstport=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

5. 以下の行を削除します。

```
topn.subtypes.dstport=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポートは上位Nレポートです。このレポートでは、特定の送信先ポートのネットワーク全体における上位話者を表示します。デフォルトで、このレポートには、送信先ホスト名のみでグループ化されたデータが表示されます。ただし、送信元ホスト名を「グループ化」メトリックとして追加する場合は、各会話に対して上位N値を表示できます。

たとえば、送信先ポートとして160を選択し、「ボリューム-バイト数 (入力) (合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力) (合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、送信先ポートが160のネットワークトラフィックに影響を与える上位話者が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素 (送信元、送信先、およびアプリケーション) を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名] としてレポートに表示されず。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポートは、以下の値がデフォルトに設定されません。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

時系列チャートの表示

このオプションを選択すると、選択した期間における棒グラフ中のさまざまなエントリーのメトリックの変動が積み重ねチャートグラフとして表示されます。デフォルト値はNoです。

注: [時系列チャートの表示] オプションは時間がかかるクエリーを実行します。このため、これはオプションとして提供されています。

インタフェーストラフィック集計済み上位Nテーブル分析レポート

NPSに格納されるトラフィックデータはNNM iSPI Performance for Trafficによってカテゴリ分けされて、クエリーの効率的な実行に利用されます。また、これによって大量のデータがより長期間にわたって保有されます。

このレポートでは、選択したメトリックによってネットワーク要素をランク付けします。上位Nレポートとは異なり、このレポートには棒グラフや時系列のグラフは表示されません。大規模な環境においては、NPSは上位Nレポートよりも速く上位Nテーブルレポートを生成できます。上位N要素をできるだけ早く確認するには、上位Nレポートではなく上位Nテーブルレポートを使用してください。

次のレポートを使用すると、カテゴリ分けされたトラフィックデータをデータの保有期間、トラフィックのタイプ (アプリケーション、ToS、会話にマップされたトラフィック)、およびトラフィックフローの送信元または送信先ごとに分析できます。

利用可能なインタフェーストラフィック集計済み上位Nテーブルレポート

レポート	説明
インタフェーストラフィック集計済みToSの上位アプリケーション	選択したToS値について、ネットワーク全体で上位のアプリケーションを表示します。
インタフェーストラフィック集計	選択したアプリケーションについて、ネットワーク全体で上位の話者 (送信

レポート	説明
済みアプリケーションの上位会話	元と送信先のペアを表示します。
インタフェーストラフィック集計済みToSの上位会話	選択したToS値について、ネットワーク全体で上位の話者(送信元と送信先のペア)を表示します。
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位送信先	選択したアプリケーションについて、ネットワーク全体で他のホストから受信しているデータパケットが上位の送信先ホストを表示します。
インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位送信元	選択したアプリケーションにマップされたフローパケットの生成がネットワーク全体で上位のホスト(データパケットの送信元ホスト)を表示します。
インタフェーストラフィック集計済みToSの上位送信元	選択したToS値とのフローパケットの生成がネットワーク全体で上位の送信元ホスト(データパケットの送信元ホスト)を表示します。
インタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーション	ネットワーク全体でネットワークトラフィックに影響を与える上位Nアプリケーションを表示します。
インタフェーストラフィック集計済み上位会話	ネットワーク全体で上位の話者(送信元と送信先のペア)を表示します。このレポートを使用して、2つのホスト間におけるデータのフローを監視できます。
インタフェーストラフィック集計済み上位送信先	ネットワーク全体でデータパケットの受信量が最も多い上位Nホストを表示します。
インタフェーストラフィック集計済み上位インタフェース	ネットワーク全体で送受信トラフィックの量が最も多い上位Nインタフェースを表示します。
インタフェーストラフィック集計済み上位送信元	ネットワーク全体で全送信先に送信しているデータパケット量が最も多い上位Nホストを表示します。
インタフェーストラフィック集計済み上位ToS(サービスのタイプ)	選択したサービスのタイプ(ToS)値に基づいて、ネットワークトラフィックに占める上位を表示します。
インタフェーストラフィック集計済み上位送信先ポート	ネットワーク全体でデータパケットの受信量が最も多い上位N送信先ポートを表示します。
インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元	選択した送信先ポートに対してデータパケットを送信している上位送信元ホストを表示します。
インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先	選択した送信先ポートでデータパケットを受信している上位送信先ホストを表示します。
インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話	選択した送信先ポートについて、ネットワーク全体で上位話者を表示します。

NPSホームページに利用可能なレポートをすべて表示すると、ユーザビリティ上の大きな問題が発生する可能性があります。さまざまなタイプの上位Nテーブルレポートを交互に選択すると、時間のかかるプロセスが繰り返して発生する可能性があります。この問題を克服するために、NNM iSPI Performance for Trafficでは、すべての集計済み上位Nテーブルレポートの開始点として機能する上位Nテーブル分析レポートを選択できます。

上位Nテーブルレポートを起動するには、以下の手順を実行します。

1. NPSコンソールで、[レポート] ワークスペースに移動します。
2. [iSPIトラフィック] > [インタフェーストラフィック] > [インターフェーストラフィック集計済み] をクリックします。
3. [上位Nテーブル分析] を選択します。
4. [レポートタイプの選択] パネルで起動するレポートのタイプを選択し、[選択を確認] をクリックします。デフォルトの選択は上位インタフェースとなっており、インタフェーストラフィック集計済み - 上位インタフェース - 上位Nテーブルレポートが起動します。NNM iSPI Performance for Trafficによって起動されるレポートは、各オプションで以下ようになります。
 - 上位インタフェース: インターフェーストラフィック集計済み - 上位インタフェース - 上位Nテーブルレポートが起動します。
 - 上位アプリケーション: インターフェーストラフィック集計済み - 上位アプリケーション - 上位Nテーブルレポートが起動します。
 - 上位送信元: インターフェーストラフィック集計済み - 上位送信元 - 上位Nテーブルレポートが起動します。
 - 上位送信先: インターフェーストラフィック集計済み - アプリケーションの送信先 - 上位Nテーブルレポートが起動します。
 - 上位会話: インターフェーストラフィック集計済み - 上位会話 - 上位Nテーブルレポートが起動します。
 - 上位ToS: インターフェーストラフィック集計済み - 上位ToS - 上位Nテーブルレポートが起動します。
 - 上位送信先ポート: インターフェーストラフィック集計済み - 上位送信先ポートのレポートが起動します。

次のいずれかのオプションを選択した場合のみ、以下の手順を実行します。

- **上位アプリケーション**
 - a. [アプリケーション名] を選択します。

注: NNM iSPI Performance for Trafficでは、アプリケーションのリストはアルファベット順にソートされます。

NNM iSPI Performance for Trafficによって、レポートデータを分析するためのアプリケーション名が設定されます。

- b. 選択したアプリケーションにマップされているトラフィックにフィルターを適用するには、次のいずれかのトポロジフィルターを選択します。
 - アプリケーションの送信元: インターフェーストラフィック集計済み - アプリケーションの送信元 - 上位Nテーブルレポートが起動します。
 - アプリケーションの送信先: インターフェーストラフィック集計済み - アプリケーションの送信先 - 上位Nテーブルレポートが起動します。
 - アプリケーションの会話: インターフェーストラフィック集計済み - アプリケーションの会話 - 上位Nテーブルレポートが起動します。
- c. [選択を確認] をクリックします。

• **上位のサービスのタイプ**

- a. [サービスのタイプ] を選択します。

注: NNM iSPI Performance for Trafficでは、サービスのタイプのリストはアルファベット順にソートされます。

NNM iSPI Performance for Trafficによって、レポートデータを分析するためのサービスのタイプが設定されます。

- b. 選択したサービスのタイプにマップされているトラフィックにフィルターを適用するには、次のいずれかのトポロジフィルターを選択します。
- ToSのアプリケーション: インタフェーストラフィック集計済み - ToSのアプリケーション - 上位Nテーブルレポートを起動します。
 - ToSの送信元: インタフェーストラフィック集計済み - ToSの送信元 - 上位Nテーブルレポートが起動します。
 - ToSの会話: インタフェーストラフィック集計済み - ToSの会話 - 上位Nテーブルレポートが起動します。
- c. [選択を確認] をクリックします。

• **上位送信先ポート**

- a. [送信先ポート] を選択します。

注: NNM iSPI Performance for Trafficでは、送信先ポートのリストはアルファベット順にソートされます。

NNM iSPI Performance for Trafficによって、レポートデータを分析するよう選択した送信先ポートが設定されます。

- b. 選択した送信先ポートにマップされているトラフィックにフィルターを適用するには、以下のいずれかのトポロジフィルターを選択します。
- 送信先ポートの送信元: インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のテーブルレポートが起動します。
 - 送信先ポートの送信先: インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のテーブルレポートが起動します。
 - 送信先ポートの会話: インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のテーブルレポートが起動します。
- c. [選択を確認] をクリックします。

上位Nテーブル分析レポートのデフォルトオプションは上位インタフェースです。上位Nテーブル分析レポートを起動するたびに、このオプションがNNM iSPI Performance for Trafficで自動的に選択されます。[トポロジフィルター] タブまたはドリルダウンオプションを使用してアプリケーション名またはサービスのタイプをトポロジフィルターに選択した場合、対応するレポートタイプ(上位アプリケーションまたは上位ToS)が「上位Nテーブル分析」レポートの次回起動時にNNM iSPI Performance for Trafficによって自動的に選択されます。


上位Nテーブル分析レポートの[実行プロンプト] リンクを使用して、トポロジフィルターを設定できます。いったん選択したフィルターを削除するには、リセット機能を使う必要があります。ただし、レポート用に選択できるフィルターの種類は、レポートに表示されるデータのタイプに応じて異なります。たとえば、上位ToSレポートで[アプリケーション名]としてトポロジフィルターを設定した場合でも、[アプリケーション名]は上位ToSレポートのトポロジセクターに含まれていないため、NNM iSPI Performance for Trafficは設定したフィルターを使用しません。

特定のレポートで、どのフィールドに対してフィルターを適用できるかを確認するには、該当するレポートのコンテキスト内でトポロジセクターを起動します。該当するレポートを起動してから、[プロンプト実行] リンクを使ってトポロジセクターを起動します。

BIポータルでインタフェーストラフィック集計済み上位Nテーブルレポートをリストするには、以下の手順を実行します。

デフォルトでは、インタフェーストラフィック集計済み上位NのレポートはBIサーバー共有フォルダで非表示です。NPSのホームページで[BIサーバー]を選択し、[共有フォルダ] > [iSPIトラフィック]を選択し、次に[インタフェーストラフィック集計済み]フォルダを選択しても、これらのフォルダは表示されません。

共有フォルダでこれらのレポートを表示するには、以下の手順を実行します。

1. NPSホームページで[BIサーバー]をクリックします。
2. [ポータル]をクリックしてHPE NNM iSPI Performance BI Portalを起動します。
3.  [My Area Options] > [My Preferences] をクリックします。
4. [Show hidden entries] オプションを選択します。
5. [OK] をクリックします。

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
5. 以下の行を追加します。

```
enable.topn.subtypes.tos=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
5. 以下の行を削除します。

```
enable.topn.subtypes.tos=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

上記の手順を使用してデータ収集を有効化または無効化すると、以下の3つのレポートに適用されます。

- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポート

レポートでは、選択したToS値に対する上位アプリケーションが表示されます。

たとえば、ToS値として25を選択し、「ボリューム-バイト数 (入力) (合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力) (合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、この25というToS値によって特徴付けられるネットワークトラフィックに影響を与えた、データが最大量の上位アプリケーションが表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素 (送信元、送信先、およびアプリケーション) を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = アプリケーション名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
5. 以下の行を追加します。

```
enable.topn.subtypes.tos=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
5. 以下の行を削除します。

```
enable.topn.subtypes.tos=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

上記の手順を使用してデータ収集を有効化または無効化すると、以下の3つのレポートに適用されます。

- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポート

デフォルトで、インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポートには、送信先ホストのみでグループ化されたデータが表示されます。ただし、(元の「グループ化」メトリックである送信先ホスト名を保持する一方で)送信先ホスト名を「グループ化」メトリックとして追加した場合は、送信元と送信先のペアごと、つまり各会話に対して、上位N値を表示できます。

たとえば、ToS値として25を選択し、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、ToS値が25のネットワークトラフィックに影響を与えている上位話者が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間

- メトリック= ボリューム- バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション= 上位 10

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位会話のレポート

デフォルトで、インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位送信先のレポートには、送信先ホストのみでグループ化されたデータが表示されます。ただし、(元の「グループ化」メトリックである送信先ホスト名を保持する一方で)送信先ホスト名を「グループ化」メトリックとして追加した場合は、送信元と送信先のペアごと、つまり各会話に対して、上位N値を表示できます。

たとえば、アプリケーションとしてSNMPを選択し、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、SNMPネットワークトラフィックに影響を与える上位話者が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されません。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーションの上位会話のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去 1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック= ボリューム- バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション= 上位 10

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信先のレポート

レポートでは、選択したアプリケーションに対する上位送信先ホストが表示されます。

たとえば、アプリケーションとしてSNMPを選択し、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、SNMPに対して最大量のデータ(バイト数)を受信したホストが表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されません。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信先のレポートは、以下の値がデフォルトに設定されます。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信元のレポート

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信元のレポートでは、特定のアプリケーションにマップされているフローパケットを生成する、ネットワーク全体における上位送信元ホスト (データパケットを送信するホスト) が線グラフで表示されます。このレポートは、NPSの状況依存ナビゲーション機能を使用して生成されます。そのため、まずインタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポートを起動して、アプリケーションを選択した後、このレポートを起動することをお勧めします。レポートでは、選択したアプリケーションに対する上位送信元ホストが表示されます。

たとえば、アプリケーションとしてSNMPを選択し、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、最大量のSNMPトラフィックを送信した上位ホストが表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素 (送信元、送信先、およびアプリケーション) を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みアプリケーション別上位送信元のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信元ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。

2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。
Windowsの場合
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
Linuxの場合
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
3. 以下のディレクトリに移動します。
Windowsの場合
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
Linuxの場合
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
5. 以下の行を追加します。
enable.topn.subtypes.tos=true
6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。
Windowsの場合
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
Linuxの場合
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。
Windowsの場合
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
Linuxの場合
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
3. 以下のディレクトリに移動します。
Windowsの場合
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
Linuxの場合
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
5. 以下の行を削除します。
enable.topn.subtypes.tos=true
6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。
Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

上記の手順を使用してデータ収集を有効化または無効化すると、以下の3つのレポートに適用されます。

- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位アプリケーションのレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポート
- インタフェーストラフィック集計済みToS別上位会話のレポート

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポートでは、特定のToS値を持つフローパケットを生成する、ネットワーク全体における上位送信元ホスト(データパケットを送信するホスト)が表示されます。このレポートは、NPSの状況依存ナビゲーション機能を使用して生成されます。そのため、まずインタフェーストラフィック集計済み上位TOS(サービスのタイプ)のレポートを起動して、ToS値を選択した後、このレポートを起動することをお勧めします。レポートでは、選択したToS値に対する上位送信元ホストが表示されます。

たとえば、ToS値として25を選択し、「ボリューム-バイト数(入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数(出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、ToS値が25のフローパケットに対して最大量のデータ(バイト数)を送信した上位ホストが表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済みToS別上位送信元のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信元ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数(入力)(合計)、ボリューム-バイト数(出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポート

このレポートでは、ネットワークトラフィックに影響を与える、ネットワーク全体における上位Nアプリケーションが線グラフで表示されます。

NNM iSPI Performance for Trafficには、事前定義されたアプリケーションディレクトリがあります。NNM iSPI Performance for Trafficの設定フォームを使用すると、既存のアプリケーション定義を変更したり、新しいアプリケーション定義を作成したりすることが可能です。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保

持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応 インタフェースごとに実行されます。

上位アプリケーションレポートでは、他のレポートでは使用できない次の帯域幅メトリックを追加に選択できます。

- 帯域幅 - Mbps (入力)(最小)
- 帯域幅 - Mbps (入力)(最大)
- 帯域幅 - Mbps (入力)(平均)
- 帯域幅 - Mbps (出力)(最小)
- 帯域幅 - Mbps (出力)(最大)
- 帯域幅 - Mbps (出力)(平均)
- 帯域幅使用率 (最小)
- 帯域幅使用率 (最大)
- 帯域幅使用率 (平均)

インタフェーストラフィック集計済み上位アプリケーションのレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = アプリケーション名
- 時間範囲 = 過去 1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム - バイト数 (入力)(合計)、ボリューム - バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位 10

インタフェーストラフィック集計済み上位会話のレポート

会話とは、2つのホスト間におけるデータのフローを意味します。NNM iSPI Performance for Traffic上位会話レポートを使用すると、環境内における上位話者を監視できます。

デフォルトでは、インタフェーストラフィック集計済み上位会話レポートでは、データパケットを受信する、ネットワーク全体における上位Nホストが線グラフで表示されます。ただし、(元の「グループ化」メトリックである送信先ホスト名を保持する一方で)送信元ホスト名を「グループ化」メトリックとして追加した場合は、送信元と送信先のペアごと、つまり各会話に対して、トラフィックパフォーマンスインジケータの上位N値を表示できます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応 インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み上位会話のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去 1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム - バイト数 (入力)(合計)、ボリューム - バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位 10

インタフェーストラフィック集計済み上位送信先のレポート

インタフェーストラフィック集計済み上位送信先レポートでは、データパケットを受信する、ネットワーク全体における上位Nホストが線グラフで表示されます。

たとえば、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、最大量のデータ(バイト数)を受信した上位Nホスト(データパケットの受信者)のホスト名が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み上位送信先のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10



インタフェーストラフィック集計済み上位インタフェースのレポート

インタフェーストラフィック集計済み上位インタフェースのレポートでは、選択したメトリックによってフロー対応のインタフェースまたはノードをランク付けします。極端な状態で実行されたインタフェースまたはノードを特定するには、このレポートを使用します。このレポートを使用して、使用率のレベルが異常な要素の履歴データを分析できます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

インタフェーストラフィック集計済み上位インタフェースのレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- 要素ごとのグループ化 = 修飾インタフェース名
- 開始日/時間 = デフォルトの時間範囲およびデータベースのデータによって異なる
- 時間範囲 = 過去1時間
- 時間 = すべて
- 曜日 = すべて
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

このレポートでは、デフォルトで修飾インタフェース名ごとにデータがグループ化されます。複数のグループ化属性を選択するには、 ([新しいグループ化を追加]) ボタンを使用します。グループ化属性を削除するには、 ([グループ化を削除]) ボタンを使用します。

インタフェーストラフィック集計済み上位送信元のレポート

インタフェーストラフィック集計済み上位送信元レポートでは、異なる送信先にデータパケットを送信する、ネットワーク全体における上位Nホストが線グラフで表示されます。

たとえば、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、最大量のデータ(バイト数)を送信した上位Nホスト(データパケットの送信者)のホスト名が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み上位送信元のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信元ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済み上位ToS (サービスのタイプ) のレポート

インタフェーストラフィック集計済み上位ToS (サービスのタイプ) レポートでは、ネットワーク全体においてトラフィックに最も影響を与えている要素の線グラフが、ToS (サービスのタイプ) 値に基づいて表示されます。

たとえば、「ボリューム-バイト数 (入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、データ量(バイト数)が最大であるフローパケット(受信および送信)のToS値が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

上位ToS値をクリックしてフィルターを設定すると、より詳細な分析を実行することができます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[-1]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み上位ToS (サービスのタイプ) のレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = サービスのタイプ
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間

- メトリック= ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション= 上位10

インタフェーストラフィック集計済み上位送信先ポートのレポート

これらのレポートには、データパケットを受信するネットワーク全体での、上位N送信先ポート¹

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[-1]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み上位送信先ポートのレポートは、以下の値がデフォルト設定になります。

- グループ化する要素 = 送信先ポート
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック= ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション= 上位10

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

¹データパケットの受信者

- 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
- 以下の行を追加します。

```
topn.subtypes.dstport=true
```

```
enable.srcordst.dstport=true
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

- 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

- Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
- 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

- 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。
5. 以下の行を削除します。


```
topn.subtypes.dstport=true
enable.srcordst.dstport=true
```
6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。
7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

上記の手順を使用してデータ収集を有効化または無効化すると、以下の3つのレポートに適用されます。

- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポート
- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポート
- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポート

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポートは上位Nテーブルレポートです。このレポートでは、特定の送信先ポートにフローパケットを送信する、ネットワーク全体における上位送信元ホスト（データパケットを送信するホスト）の表形式データが表示されます。

たとえば、送信先ポートとして160を選択し、「ボリューム/バイト数 (入力) (合計)」メトリックと「ボリューム/バイト数 (出力) (合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、送信先ポート160にデータパケットを送信する上位送信元が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素（送信元、送信先、およびアプリケーション）を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポートは、以下の値がデフォルトに設定されます。

- グループ化する要素 = 送信元ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数 (入力)(合計)、ボリューム-バイト数 (出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

5. 以下の行を追加します。

```
topn.subtypes.dstport=true
```

```
enable.srcordst.dstport=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

- 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

- Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。

- 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

- 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

- 以下の行を削除します。

```
topn.subtypes.dstport=true
```

```
enable.srcordst.dstport=true
```

- nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

- 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

上記の手順を使用してデータ収集を有効化または無効化すると、以下の3つのレポートに適用されます。

- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信元のレポート
- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポート
- インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポート

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポートは上位Nテーブルレポートです。このレポートでは、特定の送信先ポートでフローパケットを受信する、ネットワーク全体における上位送信先ホスト(データパケットを受信するホスト)の表形式データを表示します。

たとえば、送信先ポートとして160を選択し、「ボリューム-バイト数(入力)(合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数(出力)(合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、送信先ポートが160のネットワークトラフィック上でデータパケットを受信する上位送信先が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位送信先のレポートは、以下の値がデフォルトに設定されます。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数(入力)(合計)、ボリューム-バイト数(出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポート

デフォルトではこのレポートのデータ収集は無効化されています。このレポートのデータ収集を有効化すると、NNM iSPI Performance for Trafficのパフォーマンスに影響する可能性があります。このレポートのデータ

収集を有効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

5. 以下の行を追加します。

```
topn.subtypes.dstport=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

このレポートのデータ収集を無効化するには、以下の手順を実行してください。

1. Windowsの場合は管理者として、Linuxの場合はrootとしてリーフコレクターシステムにログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを停止します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstop.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstop.ovpl
```

3. 以下のディレクトリに移動します。

Windowsの場合

```
%TrafficDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%TrafficDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

```
%NNMDataDir%\nmsas\traffic-leaf\conf
```

この例では、%NNMDataDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのデータディレクトリです。

Linuxの場合

```
/var/opt/OV/nmsas/traffic-leaf/conf
```

4. nms-traffic-leaf.address.propertiesをテキストエディターで開きます。

5. 以下の行を削除します。

```
topn.subtypes.dstport=true
```

6. nms-traffic-leaf.address.propertiesファイルを保存して閉じます。

7. 以下のコマンドを実行して、リーフコレクターを再起動します。

Windowsの場合

```
%TrafficInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%TrafficInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされていない場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

```
%NNMInstallDir%\traffic-leaf\bin\nmstrafficleafstart.ovpl
```

この例では、%NNMInstallDir%は、リーフコレクターがNNMiと同じシステムにインストールされている場合の、NNM iSPI Performance for Trafficのインストールディレクトリです。

Linuxの場合

```
/opt/OV/traffic-leaf/bin/nmstrafficleafstart.ovpl
```

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポートは上位Nテーブルレポートです。このレポートでは、特定の送信先ポートのネットワーク全体における上位話者の表形式データを表示します。デフォルトで、このレポートには、送信先ホスト名のみでグループ化されたデータが表示されます。ただし、送信元ホスト名を「グループ化」メトリックとして追加する場合は、各会話に対して上位N値を表示できます。

たとえば、送信先ポートとして160を選択し、「ボリューム-バイト数 (入力) (合計)」メトリックと「ボリューム-バイト数 (出力) (合計)」メトリックを使用してレポートを生成した場合、送信先ポートが160のネットワークトラフィックに影響を与える上位話者が表示されます。

ランク付けして表示する件数には、5、10、25、50、または100の中から選択できます。レポートでは、選択したメトリックの上位Nレポートまたは下位Nレポートを表示できます。選択した下位Nに対して、レポートでは、NNM iSPI Performance for Trafficによって保有された上位影響要素データからの下位Nレコードが表示されます。

NNM iSPI Performance for Traffic は、インタフェースごとにネットワークトラフィックに対する、上位の影響要素(送信元、送信先、およびアプリケーション)を計算します。上位の影響要素は5分ごとに計算され、データは保持されます。ネットワークトラフィックへの影響が少ない要素に関するデータは、[匿名]としてレポートに表示されます。上記の処理は、フロー対応インタフェースごとに実行されます。

インタフェーストラフィック集計済み送信先ポートの上位会話のレポートは、以下の値がデフォルトに設定されます。

- グループ化する要素 = 送信先ホスト名
- 時間範囲 = 過去1時間
- 粒度 = 5分間
- メトリック = ボリューム-バイト数(入力)(合計)、ボリューム-バイト数(出力)(合計)
- 上位Nのオプション = 上位10

用語集

ドキュメントのフィードバックを送信

このドキュメントに関するご意見については、電子メールでドキュメントチームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

レポートのオンラインヘルプ (Network Node Manager iSPI Performance for Traffic Software 10.30) に関するフィードバック

電子メールの本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信] をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、network-management-doc-feedback@hpe.com までお送りください。

フィードバックをお寄せください